

# 三瑞だより

令和4年度 12月号  
荒川区立第三瑞光小学校  
校長 渡邊 滋  
発行 令和4年12月1日

## 心のいろが放たれる瞬間<sup>とき</sup>



副校長 竹下 佳余

木々の色彩に秋の深まりと、風の冷たさに冬の訪れの両方を感じる頃となりました。

令和4年度「展覧会～届けよう！感じよう！みんなの思い～」が、11月17（木）から19日（土）の3日間、大盛況のうちに行われましたことに感謝申し上げます。コロナ禍にあり、未だ人数制限をしたため、地域の方々に公開できなかったことは、心残りでしたが、保護者の方々に作品を一つ一つ丁寧に観ていただけたこと、子どもたちにとって大きな励みとなりました。また、今回の展覧会から、PTAのボランティアの方々に受付・会場の見守りのご協力をいただけたことで、より温かみのある展覧会となりました。ありがとうございました。

体育館、廊下等に飾られた図画工作・家庭科・書写の作品は、1学期よりこつこつと努力を重ね、子どもたちが創り上げてきたものです。作品への思い入れは計り知れないものだと思います。担任時代、作品ができあがると「先生、これ今日持って帰っていい？だって大好きだから一緒に寝たいんだもの。」と必ず聞いてくる子がいました。そのたびに、「ああ、図工の作品が、まるでお気に入りのぬいぐるみやペットのように、かけがえ無いものになっているのだな」と大変羨ましく思ったものです。というのは、私自身、図工と言えば、「何かきれいで整ったもの、上手なものを作らなければいけない」という思いに捉われ、作品への愛着に至っていなかったからです。

子どもたちの作品は、実に多彩でした。同じテーマで創作しても、こう表現する子もいれば、別の表現をする子もいる。型や枠に捉われず、一人一人の感性が光っていました。諸感覚を働かせて、素材をぞんぶんに楽しむ様子がそこかしこに見て取れました。手で触れた感覚から生まれた新たな発想、調和がとれていてもとれていなくても何か語りかけてくるような色づかいやデザイン、匂いや温度までもが伝わってくる形や陰影の工夫、しなやかかつ強い筆の運びなどなど。そして、それらを鑑賞する全ての人たちが、「いいね、素晴らしいね、ずっと見ていたいな。」という気持ちで、創り手の多様な思いをしっかりと受け止めてくださったことも、今回の展覧会の大きな喜びです。

さあ、1年の締めくくりの月、12月がスタートします。お坊さんも走るほど忙しく、慌ただしい時期ではありますが、気持ちを落ち着け、健康にも留意しながら、学校生活に励んでいけるよう努めて参ります。



## 12月の目標

生活目標……友だちと仲良くしよう  
保健目標……うがい・手洗いをしっかりしよう  
給食目標……仲良く楽しく食べよう